

追悼の辞

本日、ここ名古屋工業大学におきまして、
恩師 平岡節郎先生を偲び、追悼の言葉を述べさせていただきますことを、
深い感謝とともに光栄に存じます。

私は1987年、留学生として名古屋工業大学に参り、
先生のご指導のもとで Jet Mixingに関する研究に取り組み、
1991年に博士号を取得いたしました。

私は先生のもとで博士号を授与された最初の弟子でございます。

先生は、武人を思わせる堂々たる骨格と体躯をお持ちでありながら、
その内面は実に温厚で、常に礼節を重んじられる、
まさに「外柔内剛」のお人柄でいらっしゃいました。

研究指導においても、その姿勢は一貫しておりました。

私の博士論文では、攪拌槽内の移動現象について
ジェット流のみを考慮して解析を行っておりました。しかし先生は、そこにとどまらず、
回転するジェット軸が生み出す旋回流の影響まで見落としてはならないと、
細部にわたり丁寧に指導くださいました。

そのとき私は、研究とは「見えるもの」だけを扱うのではなく、
「見えにくいもの」にまで思索を巡らせる営みであることを、身をもって学びました。

先生から学んだのは、知識だけではなく、研究者としての姿勢そのものでございました。

また先生は、毎年新年になりますと、御自宅である高藏寺のご邸宅に弟子たちを招き、
心温まる交流の場を設けてくださいました。

学問の師であると同時に、人生の導き手でもあられたことを、
今あらためて深く感じております。

三年前には、先生は長年のご研究と教育へのご功績により、
国より叙勲の榮に浴されました。それは私たち弟子にとりまして、
この上ない誇りでございました。

私は二年前に定年退職いたしました、
その直前までも先生の学問の系譜を受け継ぐ現役の加藤教授の助けで、
4編の論文を発表する機会をいただきました。

それは私にとりまして、
単なる研究成果ではなく、
先生から始まった学問の流れが、
時を越えて今なお生き続けている証であると感じております。

先生が蒔かれた種は、
確かに芽を出し、枝を伸ばし、
次の世代へと受け継がれております。

先生、
長年にわたり本当にありがとうございました。

どうか安らかにお眠りください。

令和8年3月7日 高承台